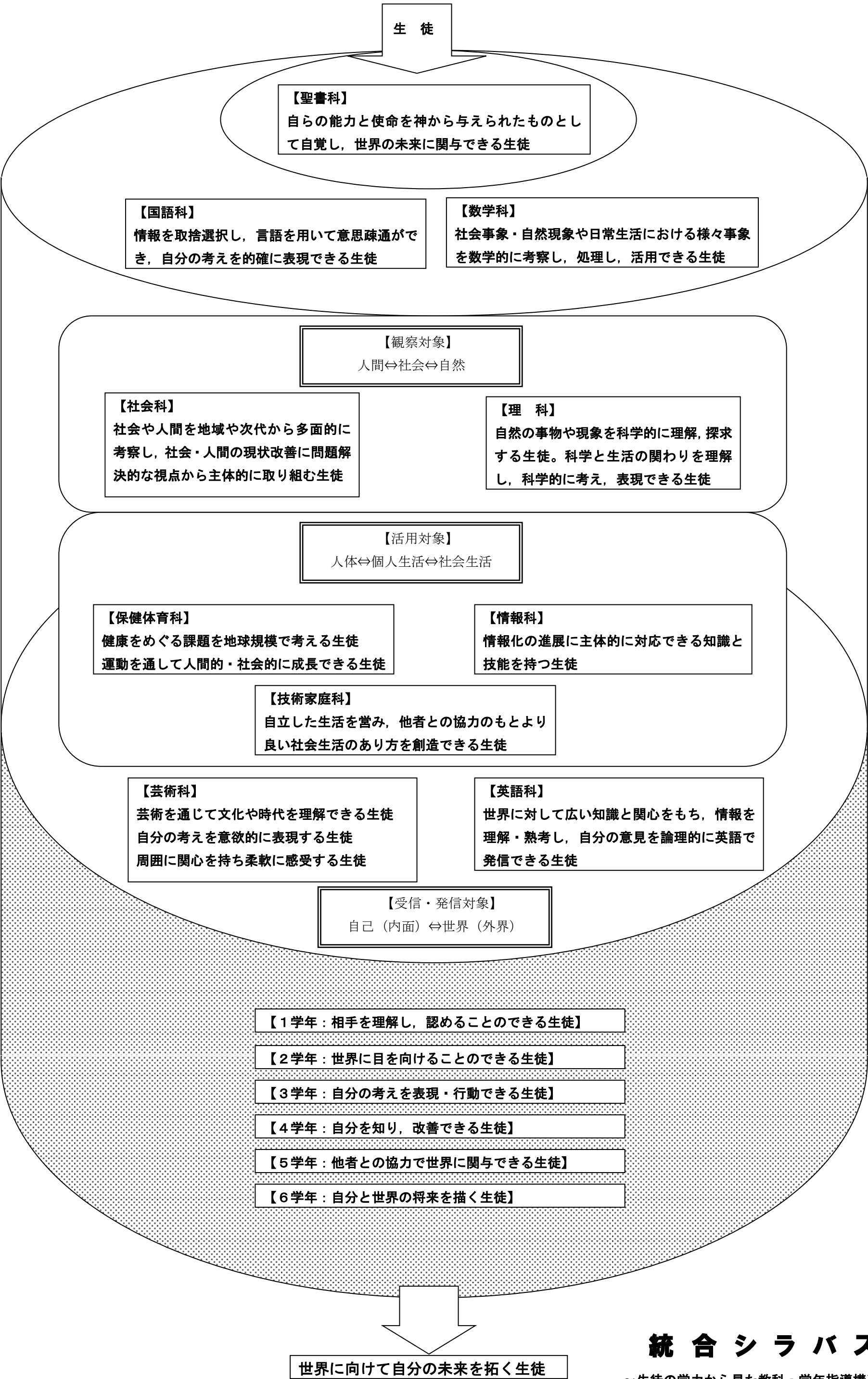




世界に向けて自分の未来を拓く生徒

統合シラバス

～生徒の学力から見た教科・学年指導構造図～

【教科の概要】 現代社会・現代人の特徴、個人と社会のかかわりを学び、社会の一員として、また形成者としてあるべき個人と社会について考えます。このため、地理的分野では世界と日本の諸地域を通じて社会と人間の地域の特徴と一般的共通性を、歴史的分野では世界と日本の歴史を通じて、社会と人間の時代的特徴やと一般的共通性、個人や社会の発展過程を学びます。		【教科からみた学校教育目標（生徒像）】 あるべき社会と人間を描き、社会・人間の現状改善に向けて主体的に関与していく生徒	社会科 学年段階別到達目標
育成する学力	学 習 活 動	評 価 項 目	
A 社会や人間を理解するための知識を習得し、整理する力 ①単元目標を理解する力 ②学習対象を具体例から説明する力 ③学習対象を理解するための具体例相互の関係を把握する力 情報の取り出し：内容を正確に理解した上で、テキストの中から「情報」を取り出す	到達目標を事前に提示した授業 事後に到達点を確認する授業 ①チェックリストで目的と達成を確認する ②基本用語の正確な認知・再生 基本用語の正誤判断を確認する 基本用語から説明対象を回答する 理解対象を基本用語で説明する ③学習内容を構造化（図式化）する 基本用語の分類…カテゴライズする カテゴリー間の関係…対立・同類・因果関係を把握し文章化する	①a 現代社会の特徴を把握するために必要な基本事項を記憶し、再生できる。 b 各地域の個別特殊性と一般共通性を把握するために必要な基本事項を記憶し、再生できる。 c 各時代の個別特殊性と一般共通性を把握するために必要な基本事項を記憶し、再生できる。 ②a 現代社会の特徴を現実の具体例から把握できる b 現代社会と自己とのかかわりを具体例から把握できる c 各地域の個別的特徴を具体例から把握できる d 各時代の個別的特徴を具体例から把握できる ③a 各地域の個別的特徴を諸条件（自然環境・人々の営み、他地域との関係）から把握できる b 各時代の個別的特徴を諸条件（原因・結果・影響など）から把握できる c 各地域の個別的特徴を他の地域との類似点と相違点によって分類できる d 各時代の個別的特徴を他の時代との類似点と相違点によって分類できる e 各地域や各時代の類似点から人間と社会の一般的共通性を発見できる f 各時代と他の時代との比較によって一般的共通性を発見できる	
B 知識を活用（分類・分析）して社会や人間を解釈（評価）する力 ①主題を発見する力 ②主題に基づいて情報を分類する力 ③分類した情報にもとづき対象を評価する力 解釈：内容を正確に理解した上で、テキストを根拠にして推論し、自分独自の「解釈」を述べる	課題レポートの作成 課題文型小論文 ①テキストから提起された問題を発見する。 ②テキストの示す具体例と問題の関係を把握する ③学習内容や課題文の結論について賛否を述べ、その根拠を示す。	①a 地理的事象について述べたテキストを読み取ることができる b 歴史的事象について述べたテキストを読み取ることができる c 現代社会の成果と課題をテキストから読み取ることができる d 現代社会の成果と課題を自己の実現すべき目的から発見できる ②a 現代社会の諸事象を地理的条件による国家・社会・文化の形態の結果として把握できる b 現代社会の諸事象を国家・社会・文化の歴史的発展過程の結果として把握できる ③a テキストの立場を推測し、具体例分析（社会事象，地理的事象，歴史的事象）で評価できる b テキストに示された現代社会の成果と課題について根拠を示して評価できる	
C 知識を活用（分類・分析）して社会や人間の改善に向けた方策を思考・提示する力 ①問題を設定する力 ②情報を収集する力 ③情報を活用する力 ④解決策を決定し提示する力 ⑤提示したものを評価・改善する力 ⑥学習意義の発見と興味・関心を喚起する力 熟考・評価：内容を正確に理解した上で、自分の知識や経験や考え方と結び付けて熟考・評価し、テキストを根拠にして自分独自の意見を述べる	テーマ型小論文 問題解決型ロールプレイ ・プレゼンテーション ・ディベート ①対象から提起する問題を設定する ②提起する問題思考に必要な情報を集める ③集めた情報から問題解決の方策を考える ④問題解決の方策を決定し提示する ⑤提示内容・提示方法（形式）を評価する（個別評価，相互評価）	①a 現代の人間や社会の問題点を独自の視点から設定できる ②a 問題提起や問題解決に必要な資料を収集することができる b 現代社会諸事象（結果）の課題解決の方法を社会事象や自己のあり方から考察できる c 現代社会の諸事象（結果）の課題解決の方法を地理的事象から考察できる d 現代社会の諸事象（結果）の課題解決の方法を歴史的事象から考察できる ③a 問題提起や問題解決について提示するために適切な資料を選択できる b 現代社会諸事象（結果）の課題解決の方法を社会事象や自己のあり方から考察できる c 現代社会の諸事象（結果）の課題解決の方法を地理的事象から考察できる d 現代社会の諸事象（結果）の課題解決の方法を歴史的事象から考察できる ④a 問題解決の方策をまとめ、問題提起から問題解決までの展開を工夫して提示できる ⑤a 自らの提示内容・形式（方法）について検証し、改善することができる b 他者の提示内容・形式（方法）について分析し、建設的批判をすることができる ⑥a 社会事象・地理的事象・歴史的事象に関する「学び」の意義を理解できる b 社会事象・地理的事象・歴史的事象に関する「学び」への興味・関心を喚起できる	
			《6 学年》 ●入試対応技能の完成 標準的な入試問題（共通テスト，西南学院等）での 8 割以上の得点率 ●知識を活用した社会考察 学習成果を活用した小論文の作成
			《5 学年》 ●模擬試験の活用 解答・解説を活用した知識補充 テーマに基づく学習内容の整理 出題形式からの効果的学習方法を模索 ●文章化の実践 解答に必要な知識の過不足ない抽出 論述問題の解答条件に沿った表現
			《4 学年》 ●図式化の実践 特定の視点による学習内容再構成 ●文章化の実践 論述問題の問題文の構造理解 求める答え、表記の条件の把握 ●社会理解への知識活用 学習内容と社会事象を関連付け、 習得内容の意見表明への活用 ●受験意識の早期涵養 入試動向の把握と入試科目の確認 社会科の受験科目対応体制の把握
			《3 学年》 ●抽象化・一般化 学習内容を特定の視点で“括る” ●社会理解への知識活用 学習内容と社会事象の関連付け
			《2 学年》 ●地理・歴史用語の完全定着 家庭での復習 自己点検と改善
			《1 学年》 ●基本的授業姿勢学習習慣の定着 ベル着，教材準備， 授業中の指示理解と対応 課題の期限内提出 ●学習意識の高揚

数 学 科 【教科の概要】数学は人間活動の中で何千年もかかって築き上げられ、学問の手本とされてきた学問であり、現在では科学技術を支える重要な役割を果たしている。数学を学ぶことにより「考える力」を育成する。すなわち自ら課題を見出し、分析・推論し,筋道を立てて考え、表現する力を育てていく。 【教科からみた学校教育目標（生徒像）】社会事象，自然現象や日常生活における様々な状況を数学的に考察し，処理する能力を伸ばすとともに，それらを活用できる生徒		
育成したい学力	学 習 活 動	評 価 項 目
A 数学の知識力 テキスト内言語の理解と記憶 テキスト外知識の利用	「定義」「用語」を背景を理解して覚える。	・定義，用語を正確に説明でき，表現できる。 ・定理，公式が定められた背景を説明できる。 ・定理，公式が何を意味しているかを説明できる。 ・定理，公式が何のためにあるのかを説明できる。 ・定理，公式を正確に用いることができる。
B 計算力（算術運用能力） 情報を処理する	・「定義」に基づく正確な計算法則が身につくように訓練をする。 ・算術を有効に使えるように，変形や置換などの工夫をする。 ・計算法則の意味と意義を考える。	・速くかつ正確に計算が出来る。 ・合理的に計算が出来るように式の意味を読解し，それを元に活用できる。 ・問題解決のために有効な計算方法を見つけ，正確に用いることができる。
C 様々な状況やテキストを数学的モデルとしてとらえる力 テキストから正確な情報を取り出して表現する力	・正確に情報を取り出し，それらを数量化，図式化，記号化する。 ・自然界や社会の現象に目を向け，体験的,実験的に情報を取り出し，数学的モデルを作る。	・与えられた問題の条件を正確に把握できる。 ・与えられた問題の結論を正確に把握できる。または，結果の姿を適確に想像できる。 ・条件を数量化，図式化，記号化などを用いて整理できる。 ※ 自然現象や社会事象などの様々な状況を，数学的思考でとらえていく姿勢がある。 ※ 様々な状況を思考する際，必要な情報を取り出し，不必要なものを取り除くことができる。 ※ 取り出した情報を整理し，数量化・図式化・記号化して考え易くすることができる。
D 数学的モデルを，基礎知識と論理的思考力を持って，分析し解釈する(読解する)力 テキストを分析し，主題を推理・読解する力	・数量化・図式化・記号化された情報を，計算，変形，分解，合成を駆使して分析し，何が言いたいのか，何をさせたいのかを適確に読解する。	・いくつかの事柄に関係に気づくことができる。 ・変化の生じる構造を数式に表すことができる。 ・変化の生じる構造をグラフ化することができる。 ・図，グラフ，式を関連づけて考えることができる。 ※ 思考しやすくするために，モデルを変形・合成・分解できる。 ※ 図，グラフ，式を具体的な場面に照らして読むことが出来る。
E 分析した結果を元にして問題を解決する力 推測の根拠の提示 計算技術の活用 外部情報の活用	関係の把握や法則の適用を行い，処理法を決定して解決する。	・問題解決，証明の手順や方法をテキスト内・外から選ぶことができる。 ・問題解決，証明の手順や方法を工夫することができる。 ・問題解決，証明の手順や方法をシンプルに正確に実行できる。 ・検算や証明により，結果を検証，評価することができる。
F 問題解決のプロセスと結果を表現し説明する力 情報の発信	・解答を数学的な表現を用いて正確にかつ論理的に記述する。 ・自らの課題に対して，学習し理解した事がらを数学的な表現を用いて他者に発表する。 ・数学的な結果を元の事象に戻し，その意味を考える。	・数学的な表現を用いて，根拠を明らか筋道を立てて表現することができる。 ・自分の考えを他者に説明することができる。 ・他者からの質問に対して的確に応答できる。 ・さまざまな事象の数学的な側面に着目し，数学的に表現することができる。
G 分析した結果を抽象化し一般化する力 テキストの内容評価 テキストの構造評価 (形式の吟味)	問題解決のプロセス，結果を一般化，抽象化する。	・問題の意義や出題の意図を理解できる。 ・問題の結果や，問題解決プロセスの有用性について理解できる。 ※ 結果を他の情報や知識と結びつけて考えることができる。 ※ 結果を他の情報や知識と比較，対照することができる。

※は教科横断的な評価項目

【教科の概要】		【教科からみた学校教育目標（生徒像）】	理科					
自然の事物や現象についての理解を深め、人間生活とのかかわりを考える。学問体系から、物理、化学、生物、地学の４つの領域よりなる。１～３年では、「理科」として４領域を総合的に、４～６年では「物理」、「化学」、「生物」の各領域を学習する。		自然の事物や現象についての理解と科学的に探究する能力・態度を身につけ、科学的な自然観にもとづいた見方・考え方ができる生徒。現在における科学技術の課題と人間生活とのかかわりを理解し、人や社会の将来について科学的な視点を交えて考え、表現することのできる生徒。	【育成する学年】					
育成したい学力	学 習 活 動 (指 導 方 法)	評 価 規 準	1	2	3	4	5	6
（自然現象への興味、関心、態度） 興味や関心をもって身近な現象や先端技術を科学的にとらえようとする力	・社会問題・学校行事・日常生活・最新の研究や技術などから授業内容と関連する項目を取り入れる。 ・目的意識をもって観察・実験を行う。 ・科学雑誌や科学番組を活用する。	１．身近な事物・現象に興味・関心をもって調べることができる。 ２．身近な事物・現象の規則性に興味・関心をもっている。 ３．自然や生命を尊重する姿勢をもっている。 ４．科学的な見方や考え方で日常生活をとらえることができる。 ５．実験や観察を通して、自然の事物・現象を探究する姿勢をもっている。 ６．現在および将来における科学の課題と人間生活のかかわりを考えることができる。	○	○	○	○	○	○
（自然事象についての知識・理解） 自然の事物や現象に関する知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力 学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力	・基礎用語の習得と理解 ワークシート等で事項の整理 問題演習による理解度の確認 テスト形式による定着の確認 論述型の小テストによる用語の定義等の確認 自学ノートの作成による基礎事項等の整理・確認 思考力を要する記述課題の添削指導	１．身近な事物・現象に関する知識を身につけ、日常生活との関連を見いだすことができる。 ２．モデルや図などを活用して、基本的な概念の理解を深めることができる。 ３．科学的な見方や考え方で理科に対する知識を深め、日常生活や自然とのかかわりをより深く理解することができる。 ４．基本的な概念・法則を理解し、科学的な自然観をもつことができる。	○	○	○	○	○	○
（実験・観察の技能・表現） 観察・実験における技能を習得し、その結果を科学的な考察を交えながら、文章や図・グラフ等を用いて正確に表現する力	・観察・実験をする。 実験器具の操作方法の習得 データ処理の方法の習得 結果の分析と考察 ・観察・実験レポートの作成 ワークシート形式（１～４年） 論文形式（５～６年）	１．観察・実験に必要な器具を操作することができる。 ２．観察・実験の結果をスケッチや文章で的確に記録することができる。 ３．実験条件の統一や対照実験など、自然の事物・現象を科学的に探究する基本的な方法を身につけている。 ４．定量的な測定をすることができる。 ５．安全に十分配慮して実験をおこなうことができる。 ６．観察・実験の過程、結果および考察を報告書にまとめることができる。 ７．実験の結果に対して科学的な考察を加えることができ、それを的確に表現することができる。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○
（科学的な思考） 知識と与えられた条件から予想する力 根気強く、速く、正確に計算する力 単位の意味を理解し、正しく活用することができる力 文字式を活用することができる力	・観察・実験結果や与えられたデータをグラフ化、模式化して規則性を見出す。 ・模型を用いて仕組や原理を説明する。 ・実験データの信憑性や誤差を検証する。 ・割り切れない計算に取り組む。	１．身近な事物を分類して共通性や多様性を見出すことができる。 ２．観察・実験の結果を比較し、規則性を見出すことができる。 ３．モデル化、グラフ化などの方法を用いて、身近な事物や現象を科学的に考えることができる。 ４．現象から科学的な規則性を見出し、それをもとに予測や推察ができる。 ５．数学的な手法や表記法を用いて諸現象を論理的に考えることができる。 ６．自然の事物・現象を論理的に考えたり、分析したりして、科学的な判断をすることができる。	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
（情報収集・分析・応用） 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力 分析したり考察したりする力 複数の単元で学習した内容を組み合わせて活用する力	・科学的な調査研究に基づいたデータの収集法や活用法について学ぶ。 ・比較検討の際のデータの見方を学ぶ。	１．図や表を、文章と対比して読み取ることができる。 ２．モデル化して現象を説明したり、グラフ化したものから規則性を読み取ったりすることができる。 ３．仮説を検証したり、考察を深めたりしていく上で、有効な文献の収集やその適切な活用ができる。 ４．最新の科学技術や研究成果について理解を示すことができる。	○	○ ○	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○

【教科の概要】 表現、鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情を育てる。また実技面の能力を伸ばし豊かな情操を養う。		【教科からみた学校教育目標（生徒像）】 音楽を通して、諸国の文化、時代背景を理解出来る生徒。	芸術科(音楽) 【育成する学年】					
育成したい学力	学 習 活 動	評 価 項 目	1	2	3	4	5	6
1. 興味、関心をもつ姿勢 音楽について興味、関心をもって臨む力	・興味、関心をもって活動に参加する。 (授業に臨む。)	・自分の好みにかかわらず、与えられた教材を受け入れる姿勢を持つことができる。 ・与えられた教材について興味、関心をもつことができる。 ・音楽そのものについて（授業の枠をこえて）興味、関心を持つことができる。	○	○	○	○	○	○
2. 意欲・積極性 ア) 意欲的、積極的に教材に取り組む力 イ) 自分の演奏を周囲に堂々と発表する力 ウ) 楽器演奏法、発声法を習得する力	・楽器演奏、発声法における技術を学ぶ。	・意欲的、積極的に教材と向き合うことができる。 ・受身的な活動ではなく、自主的な活動をすることができる。 ・自分のもつ可能性や能力を卑下せず、高い目標を持って活動をすることができる。	○	○	○	○	○	○
3. 想像力 楽譜を見て「この曲はどのような作品なのか」想像する力	・自分の持つ音感、知識を頼りにどのような曲か想像する。 (明るい感じ、暗い感じ、時代背景・・・)	・様々な角度から教材を考える柔軟性をもつことができる。 ・自分の持っている知識をもとに、豊かな発想をすることができる。			○	○	○	○
4. 表現力 ア) 楽譜を実際に音にして表現する力 イ) 楽器演奏法、発声法を習得する力 ウ) 曲想をつけて表現する力	・さまざまな言語で歌唱する。 ・音、旋律の動きや歌詞の内容を理解し、演奏する。	・様々な言語で歌唱表現をすることができる。 ・楽器や自分の歌声を通して音楽を表現することができる。 ・自分の思いを、言葉ではなく「音」という手段を通して表現することができる。 ・楽曲についての理解を深め、自分が納得した上で曲想をつけて表現することができる。	○	○	○	○	○	○
5. 注意深く聴き取る力（観察力・集中力） ア) 範唱、範奏を注意深く聴き取る力 イ) 音楽史の流れを理解する力 ウ) 演奏者による表現の違いを味わうことが出来る力 エ) 1つの楽譜（曲）について、多様な表現方法があることを理解する力	・西洋音楽史、日本音楽史の流れを把握する。 ・異なる演奏者の表現方法を比較、評価する。 ・様々な表現方法を認識する。	・リスニング（範唱、範奏、鑑賞）を通して、音楽を聴く「耳」を鍛えることができる。 ・音楽史の流れを把握し、作曲家や楽曲の時代的背景を認識することができる。 ・音楽史の流れを把握し、各々の時代の音楽的特徴を認識することができる。 ・様々な演奏（表現）方法があることを認識し、それについて分析、比較、評価することができる。			○	○	○	○
6. 理解力 ア) 読譜上必要な最低限の音楽記号を理解する力 イ) 音楽史の流れを理解する力 ウ) 音楽様式、音楽形式を理解する力 エ) 曲想をつけて表現する力 オ) 1つの楽譜（曲）について、多様な表現方法があることを理解する力	・ほとんどの楽譜、音楽記号が世界共通であることを知る。 ・音楽記号のとおりに関自分自身が表現することで意味を理解する。 ・西洋音楽史、日本音楽史の流れを把握する。 ・様々な作品に触れ、様式、形式を認識する。 ・音、旋律の動きや歌詞の内容を理解し、演奏する。 ・様々な表現方法を認識する。	・様々な音楽記号を理解し、自分の力で読譜をすることができる。 ・譜面上にとどまらず実際に音として表現することで、音楽をより深く理解することができる。 ・音楽史の流れを把握し、作曲家や楽曲の時代的背景を理解することができる。 ・音楽史の流れを把握し、各々の時代の音楽的特徴を理解することができる。 ・歌詞の内容を理解し、その内容に適した表現（演奏）ができる。 ・様々な演奏（表現）方法があることを認識し、それについて分析、比較、評価することで音楽をより深く理解することができる。	○	○	○	○	○	○
7. 表現の違いを味わう力 ア) 音楽史の流れを理解する力 イ) 演奏者による表現の違いを味わうことが出来る力 ウ) 1つの楽譜（曲）について、多様な表現方法があることを理解する力	・西洋音楽史、日本音楽史の流れを把握する。 ・異なる演奏者の表現方法を比較、評価する。 ・様々な表現方法を認識する。	・作曲家や楽曲の時代的背景を理解し、音楽を味わうことができる。 ・各々の時代の音楽的特徴を理解し、それぞれの表現の違いを感じ取ることができる。 ・各々の時代の特徴的表現を理解し、その楽曲がどの時代の音楽作品であるか認識することができる。 ・同じ楽曲について様々な演奏（表現）方法があることを理解し、音楽を味わうことができる。			○	○	○	○
8. 分析力 ア) 曲想をつけて表現する力 イ) 曲が作られた背景を知り、深く鑑賞する力 ウ) 演奏者による表現の違いを味わうことが出来る力	・音、旋律の動きや歌詞の内容を理解し、演奏する。 ・様々な視点から曲を分析する。 ・異なる演奏者の表現方法を比較、分析する。	・言葉の意味、歌詞の内容を理解し、それに適した表現ができる。 ・自分の持っている知識をもとに、様々な視点から楽曲を分析することができる。 ・同じ楽曲について様々な演奏（表現）方法があることを認識し、それについて比較・分析することができる。	○	○	○	○	○	○

【教科の概要】 (1)美的表現の体験を通して、創造力を盛んにする。 (2)美術的な感覚と感情を洗練する。 (3) 美的な鑑賞力を高める。 (4)美的な表現や鑑賞を通して、個性の伸長を図る。 (5)美的な表現や鑑賞を通して、生活を明るく豊かにする能力を高める。 (6)日本および諸外国の美術文化の伝統や動向を理解し、美術文化の発展に寄与する態度を養う。 (7)美術文化によって、国際間の理解を深める態度を養う。		【教科からみた学校教育目標（生徒像）】 自分の思いや考えを、自信を持って意欲的に表現したり、鑑賞できる生徒 周囲に興味関心を持ち、柔軟に感受する感性を持ち、自己価値を表現に生かすことができる生徒 【教科の育成する力】 良さや美しさの価値や心情などを感じ取る力 様々な素材にふれた体験や豊かな発想力を土台に、客観的に表現する力		芸術科(美術) 【育成する学年】					
育成したい学力	学 習 活 動	評 価 項 目		1	2	3	4	5	6
●自然物・人工物に目を向けその価値を見出し、その背景を想像していこうとする力 (1) 情報の取り出し (2) 解釈	①自然を観察し、その良さや美しさを発見する ②作品を時代背景、作家の生い立ちなどの観点から鑑賞する ③生活の中のデザインを鑑賞する	①自然を愛好し、その良さや美しさを発見することができる ②作品を時代背景、作家の生い立ちなどの観点から理解することができる ③身近なプロダクトデザイン・ヴィジュアルデザイン・建築デザインに興味・関心を持ち愛好することができる		○	○ ○	○			
●民族・地域・時代による価値の違いに興味関心を持ち理解する力 (1) 情報の取り出し (2) 解釈	①世界の民族美術、伝統美術に触れ、その違いを発見しその良さを味わう ②日本および諸外国の美術の流れから時代による価値の変遷を知り、それぞれの価値の傾向を発見し味わう ③さまざまな現代美術作品を鑑賞する	①世界の美術の違いを理解し、その良さを味わうことができる ②時代ごとの美術の特徴を理解し、それぞれの良さを味わうことができる ③高い関心を持って、作者の制作意図を探ることができる				○ ○		○ ○	○
●表現することに価値を置き有効な表現手段を探り、表現する力 (3) 熟考・評価	①多様な表現様式・方法を学ぶ ②美術の中の「影響」と「発展」を考える ③テーマを設定し、自由に表現手段を選択し制作する	①多様な表現様式・方法を理解することができる ②美術の変遷を影響と発展の観点から理解することができる ③目的にあった表現様式（方法）・材料を選択することができる		○ ○	○	○ ○		○ ○ ○	○ ○ ○
●目標を設定し実現のために計画的に行動する力 (3) 熟考・評価	①制作計画たてる ②アイデアスケッチ等を繰り返し、最終目標のイメージをしっかりとつかむ	①現実を克服し目標を実現しようとする ②発想を客観的に表現することができる						○	○
●自分の現在の価値・技術に対する評価を恐れず、意欲的に表現する力 (3) 熟考・評価	①作品を完成させ、鑑賞しあい、作品を発表することの喜びを味わう ②作品制作をふりかえり、完成させたことで見えてくる改善点を探る	①自分の思いや考えを、自信をもって表現・発表することができる ②自己価値を表現に生かすことができる			○	○			
●時代の中、世界の中の自分の位置を把握し、独創的な発想をする力 (3) 熟考・評価	①鑑賞を通して作家のコンセプトを探り、新しい美を発見していこうとする姿に触れる ②制作後コンセプトを言語化する	①個人の良さや美しさの価値や心情を感じとることができる ②自己価値を見つめ新しい美を発見しようとする姿勢がある							○ ○
●道具・表現手段等を目的に応じて使いこなす力 技術	①作品における技術の大切さを作家の姿勢や変遷から学ぶ ②技術の向上が自覚できるまで制作を続ける	①鍛錬を積み重ねることで得られる技術を尊ぶことができる ②技術を向上させようとする意欲がある		○	○			○ ○	

【教科の概要】 ＜保健＞生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を培うため、健康の大切さを認識し、健康なライフスタイルを確立する視点に立って、内容の改善を図る。 ＜体育＞ 自ら運動をする意欲を培い、生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質や能力を育成するとともに基礎的な体力を高めることを重視する。		【教科からみた学校教育目標（生徒像）】 健康教育を通して、地球環境や安全また、生活行動、疾病構造などの変化に対応できる態度を養い、心の健康、食生活をはじめとする生活習慣の乱れ、生活習慣病、薬物乱用、性に関する問題など、現在の日本での問題を、地球規模で考えることのできる生徒。 各種の運動を通して、豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成するとともに、自ら学び、自ら考えることのできる生徒。		保健体育科 【育成する学年】					
育成したい学力	学 習 活 動	評 価 項 目		1	2	3	4	5	6
◇ 運動の特性に目を向け、その仕組みを発見する力。 ◇ 生涯体育・スポーツへの関心を高め理解する力。 情報の取り出し・解釈	◇ 各種運動の実践を通して、運動の特性や仕組みについて正しく理解する。 ◇ 生涯親しめる運動・スポーツを発見し、実践する。	① 各種運動の特性・仕組みが正しく理解できる。 ② 生涯を通して実践できる、運動・スポーツについて理解する。		○	○	○	○		○
◇ 心身の健康保持増進についての関心を持ち理解する力。 ◇ 健康と環境の関連性について目を向け、理解する力。 情報の取り出し・解釈	◇ 健康の保持増進について、正しく理解する。 ◇ 健康にとって、環境がいかに重要であるかを認識し、環境整備に努める。	① 心身の発達について正しく理解できる。 ② 心の健康についての知識とその活用力が理解できる。 ③ 健康と環境の関連性について理解できる。		○ ○	○ ○	○ ○ ○	○ ○		○
◇ 運動を自ら進んで計画し、実践する力。 ◇ 自己の役割を認識し、互いに協力し、運動する力。 熟考・評価	◇ 日常生活の中で、各自にあった運動を選択し、自ら計画を立て実践していく。 ◇ 2人以上で運動をおこなう場合、自己と他者との関係をスムーズにし、実践する。	① 計画的な運動の重要性を理解し、運動を計画・立案する。 ② 集団での運動を通して、自己の役割と他者との連携について理解する。		○	○	○ ○	○ ○	○	○
◇ 自らの健康管理を通して、健康的な生活行動ができる力。 ◇ 健康的な社会環境づくりに貢献できる力。 熟考・評価	◇ 日常生活の中で、健康をいつも意識し、生活する。 ◇ 社会の一員として環境づくりを実践する。	① 健康管理について正しく理解できる。 ② 健康と社会性について正しく理解できる。 ③ 現代社会における健康問題の認識ができる。		○	○	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○
◇ 各種の運動を適切におこない、自己の体の変化に気づく力。 ◇ 生涯にわたり運動を楽しむことのできる技術を身に付ける力。 技術	◇ 各種の運動を正しくおこない、自己の体力が向上できる行動をする。 ◇ 運動を楽しく実践する。	① 各種運動を適切におこなうことができる。 ② 各種運動を通して、自己の運動表現ができる。 ③ 生涯体育の重要性について理解できる。		○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○		○ ○
◇ 傷害の防止や疾病の予防について正しい知識を身に付け実践できる力。 技術	◇ 救急救命などの人命救助の実践（訓練）をおこなう。 ◇ 傷害の防止や疾病の予防についての正しい知識を身に付けさせ、実践する。	① 救急救命法や応急処置の技術を習得できる。 ② 傷害の防止や疾病の予防について理解し、実践できる。		○	○	○ ○	○	○	

【教科の概要】 人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解し、生活に必要な知識と技術を習得し、他者と協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。		【教科からみた学校教育目標（生徒像）】 生活的自立ができる力や、他者を理解し、他者と協力して生活していこうとする力、生活を進んで工夫・改善・創造することができる力、グローバルな視点でよりよい社会や生活のありかたを考えることのできる力を育成する。	技術家庭科				
			【育成する学年】				
育成する学力	学 習 活 動	評 価 項 目	1	2	3	5	6
・将来の生活設計を考えようとする力	生活設計の立案について学ぶ。 社会的自立、経済的自立について学ぶ。	生涯を見通して、自分の将来を考えることができる。					○ ○
・協力して作業する力	被服実習で、作品を製作する。 調理実習を行なう。 木材実習で、作品を製作する。 パソコン実習で課題に取り組む。	説明を聞き、指示された内容を理解することができる。 安全に配慮し、手順通りにグループのメンバーと協力して作業することができる。 集中して作業に取り組むことができる。	○	○ ○	○	○	○
・他者を理解し、交わろうとする力	わたしたちの成長と家族、地域について学ぶ。 幼児との交流を考える。 家族・家庭と社会とのかかわりについて学ぶ。 子どもや高齢者の心身の特徴や生活について学ぶ。	家族・子ども・高齢者について理解することができる。 すすんで幼児と交わろうとすることができる。	○ ○ ○ ○			○ ○	
・情報を収集・活用する力 ・課題に対して様々な角度から考える力 ・自分の考えをまとめる力	課題について調べ学習を行なう。 統計資料や図表、グラフなどを読み取り、分析・考察する。 課題について発表する。	必要な情報収集・活用ができる。 統計資料や図表、グラフなどを読み取り、分析・考察することができる。 自分の言葉で発表することができる。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
・生活的自立のために必要な力	衣服の選択、手入れ、製作技術について学ぶ。 健康と食事、調理の基礎技術について学ぶ。 住生活の基本について学ぶ。 消費者としてのあり方を学ぶ。 家族の機能や意義について学ぶ。 子どもを生み育てることの意義、乳幼児の発達、子どもの生活、子どもをとりまく環境について学ぶ。 高齢者の心身の特徴と生活、福祉について学ぶ。 木材について学び、木材実習を行なう。 情報と私たちの生活について学び、パソコン実習を行なう。	衣生活についての基本的知識・技術を習得できている。 食生活についての基本的知識・技術を習得できている。 住生活についての基本的知識を習得できている。 消費生活についての基本的知識を習得できている。 家族・子ども・高齢者についての基本的知識を習得できている。 木材加工についての基本的知識・技術を習得できている。 情報とコンピュータについての基本的知識・技術を習得できている。	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
・社会に目を向け、問題点、矛盾などを探ろうとする力	資源・環境に配慮した生活を考える。 自立した消費者としてのあり方を考える。 食の安全を考える。	さまざまな視点から情報を分析し、自分の意見をまとめて発表することができる。		○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○
・生活をよりよいものに改善していこうとする意欲や創意工夫する力	衣生活、被服実習での学習事項を応用する。 よりよい食生活を考え、食品を選択し、献立を立て、調理実習を行なう。 パソコン実習、情報についての学習内容を応用する。 資源・環境に配慮した生活を考える。	衣服の購入、手入れ、着用、製作において自分なりに工夫することができる。 日頃の食生活を見直し、改善しようとすることができる。 パソコンを活用することができる。 環境に配慮した生活の工夫を考えることができる。	○	○	○ ○	○	○ ○
・日本や世界の生活や文化を理解する力	和食や外国の料理、食文化について学ぶ。 日本や世界の住居について学ぶ。 日本や世界の衣生活について学ぶ。	日本や世界の食文化に関心をもち、食生活に生かすことができる。 日本や世界の住居に関心をもちつことができる。 日本や世界の衣生活に関心をもちつことができる。	○	○	○		○ ○

【教科の概要】 Society 5.0に向けて大きく変化する社会で生きていくため、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。		【教科からみた学校教育目標（生徒像）】 （１）情報社会の一員として必要な能力と態度を育てる。 （２）「情報活用の実践力」、「情報モラル力」、「情報社会に参画する態度」をバランスよく身につける。 （３）情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。		情報科 【育成する学年】					
育成したい学力	学 習 活 動	評 価 項 目		1	2	3	4	5	6
「情報活用の実践力」 課題や目標に応じて情報手段を適切に活用し、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力	情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考える。 情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を学ぶ。	・情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用するために、情報の特徴とメディアの意味を理解することができる。 ・情報のデジタル化の基礎的な知識と技術及び情報機器の特徴と役割を理解させるとともに、デジタル化された情報が統合的に扱えることを理解することができる。 ・情報を分かりやすく表現し効率的に伝達するために、情報機器や素材を適切に選択し利用する方法を習得することができる。					ア ○ イ ○ ウ ○		
「情報活用の実践力」 情報通信ネットワークの活用力と効果的なコミュニケーション力	情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて学ぶ。	・コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けて理解させるとともに、通信サービスの特徴をコミュニケーションの形態とのかかわりで理解することができる。 ・情報通信ネットワークの仕組みと情報セキュリティを確保するための方法を理解することができる。 ・情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション情報通信ネットワークの特性を踏まえ、効果的なコミュニケーションの方法を習得するとともに、情報の受信及び発信時に配慮すべき事項を理解することができる。					ア ○ イ ○ ウ ○		
「情報モラル力」 情報セキュリティについて学び、情報の受発信の際に必要なモラル力	コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連について学ぶ。 情報通信ネットワークの特性や情報の受発信時に配慮すべき事項などについて理解する。	・情報化が社会に及ぼす影響を理解するとともに、望ましい情報社会の在り方と情報技術を適切に活用することの必要性を理解することができる。 ・個人認証と暗号化などの技術的対策や情報セキュリティポリシーの策定など、情報セキュリティを高めるための様々な方法を理解することができる。 ・多くの情報が公開され流通している現状を認識させるとともに、情報を保護することの必要性とそのための法規及び個人の責任を理解することができる。					ア ○ イ ○ ウ ○		
「情報社会に参画する積極的態度」 望ましい情報社会の創造に参画しようとする積極的態度	社会の情報化の進展に、積極的に参画する。	・情報システムの種類や特徴を理解させるとともに、それらが社会生活に果たす役割と及ぼす影響を理解することができる。 ・人間にとって利用しやすい情報システムの在り方、情報通信ネットワークを活用して様々な意見を提案し集約するための方法について考えることができる。 ・情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して問題を解決する方法を習得することができる。					ア ○ イ ○ ウ ○		

【教科の概要】 英語で聞いたり読んだりした内容を踏まえて、自らの考えなどを英語で発信できるよう、聞く・話す・読む・書くの4技能を育成する。中学1～3年は英語（1年：2h／2年：1.5時間／3年：1時間はオーラルコミュニケーション力を育成する時間）、高校1年は英語コミュニケーションⅠと論理表現ⅠとOC（TT）、高校2年は英語コミュニケーションⅡ、論理表現Ⅱ、OC（TT）、高校3年は英語コミュニケーションⅢ、論理表現Ⅲ、英語演習、OC（TT）の各科目からなる。		【教科からみた学校教育目標（生徒像）】 外国や日本の文化や歴史、諸問題に対して広い知識と関心を持ち、与えられた情報を理解、熟考し、自分の意見を論理的に英語で発信できる生徒。		英 語 科 【育成する学年】					
育成したい学力	学 習 活 動	評 価 項 目		1	2	3	4	5	6
Reading 速くそして正確にパラグラフごとのテーマと論理展開を見抜く力 テキストを分析的、批判的に読む力	Extensive Reading Supplementary Reading Reading Skills (Phrase Reading /Skimming / Scanning / Paragraph Reading etc.) Comprehension Summary Opinion (Oral / Writing)	多読教材を楽しみながら積極的に読むことができる。（リーディングレポート提出） 速読テキストを時間内に読み、理解することができる。 テキストに応じてリーディングスキルを使い分け、速くそして正確に読むことができる。 パラグラフごとのメインアイディアを理解することができる。 パラグラフごとに、口頭で要約することができる（日本語・英語）。 テキストを読んで、日本語で要約することができる。 テキストを読んで、英語で要約することができる。 著者の意図を正確に読み取り、それに対する意見を持つことができる。 テキストを分析的、批判的に読むことができる。		○	○	○	◎	◎	◎
Listening 目的をもって展開を予測しながら聴き、内容を把握する力	Classroom English Immediate Conversation Listening Comprehension AAA Conversation Speech (Q & A) Debate Discussion	ネイティブの先生の指示を正確に理解することができる。 日常的な話題についての英語を聞いて、大意を把握することができる。 まとまった英文を、メモをとりながら聞き、大意を把握することができる。 与えられた情報を組み合わせて答えを導き出すことができる。 社会的な話題に関する講義などを聞いて要点を整理することができる。		◎	◎	◎	◎	◎	◎
Speaking・Writing 与えられた知識を活用して自ら考え、積極的に英語で表現する力	BB Cards Immediate Conversation Retelling Speech AAA Conversation Practice (in pairs) Skit Show & Tell Debate Discussion Paragraph Writing Brainstorming / Mind-mapping Process Writing Essay Writing (Time Order / Examples Contrast & Comparison Cause & Effect / Reasons)	英語での簡単な受け答えができる。 自分のことや日本のことを簡単に英語で話すことができる。 読んだり話されたりした内容を自分の言葉で語ることができる。 日常的な話題について、ネイティブスピーカーと対話できる。 自分自身や身近な話題について、スピーチをすることができる。 メモなどを参考にしながら即興で発表したりペアで会話したりできる。 簡単なテーマで5分間程度のスキットをグループでつくり、発表できる。 ペアで英語での会話を維持することができる。 社会の諸問題について、ディベートをすることができる。 さまざまな問題について、他教科との連携の中で得た知識をもとに理解を深め、自分の意見を英語で、5分程度で発表することができる。また、それに対して、質疑応答や意見交換をすることができる。 身近な話題について、自分の考えや意見を書くことができる。またその理由を明確に示すことができる。 プレライティング活動を効果的に行うことができる。 パラグラフの構成を理解して、まとまった量の英文を書くことができる。 プロセスライティングの過程を実行し、さまざまな問題について他教科との連携の中で得た知識をもとに、自分の考えや意見を書くことができる。		◎	◎	◎	◎	◎	◎
		○		○	○	○	◎	◎	◎

